

エボというやつ：山地民ラフ族の伝説のポップ歌手

西本陽一(金沢大学人文学類)・服部一人(国際協力サロン Together)

制作者・著作権者：服部一人・西本陽一

制作年：2009年

上映時間：25分

本映像は、北部タイの山地少数民族ラフ族の伝説的ポップ歌手エボ(Ai Baw)の生涯と歌とを紹介したものである。エボは亡くなって20年以上たつが、彼の歌はキリスト教徒ラフ族のあいだで、いぜん高い人気をもつ。

ラフ族は、西南中国から東南アジアにかけての山地に暮らす少数民族で伝統的に焼畑移動耕作をおこなってきた。複数の国に暮らす、どの国でも、自分の国をもたない少数民族である。ラフ族にはキリスト教徒が多く、ラフの間でキリスト教は百年以上の歴史をもち、キリスト教徒ラフの生活と切り離すことが出来ない。

キリスト教徒ラフ族のあいだには、西洋旋律にラフ語の歌詞をのせて、ギター等の伴奏で歌う「ラフのポップス」がある。電気のない村では、古いカセットテープで、高価な電池が減ってゆくのを気にしながら、村人がラフのポップスを楽しんでいる光景が見られる。歌自体も、どっかの村の家で、粗末なラジカセで録音されたようなものが多い。

本映像は、エボの生涯をインタビューや歌から再構成している。本映像は、エボの歌と生涯のもつ魅力を紹介すると同時に、そこから、ラフの少数民族としての経験が示されればと意図している。